

① ベンジャミン・ウッドワード 編

『よりぬき英語で読む日本昔ばなし』

(ジャパンタイムズ)

本書は誰でも知っているような日本の昔話を、やさしい英語に訳した翻訳本です。第5閲覧室に配架されているような所謂多読本ではありませんが、充分利用できると思います。

内容はお馴染みのものですから、多読に慣れていない人でもスラスラ読むことが出来るでしょう。語句の注釈や和訳も付されていますが、最初はこれらを見ずに読み進んでみて下さい。CDも付いているので、耳で楽しむことも出来ます。本書で懐かしい昔話に英語で触れてみてはいかがでしょうか。姉妹編に『よりぬき英語で読む世界昔ばなし』もあります。(T. F.)

837.7 || Yori

③ 小杉拓也 著

『仕事で大差をつける国語力の磨き方』

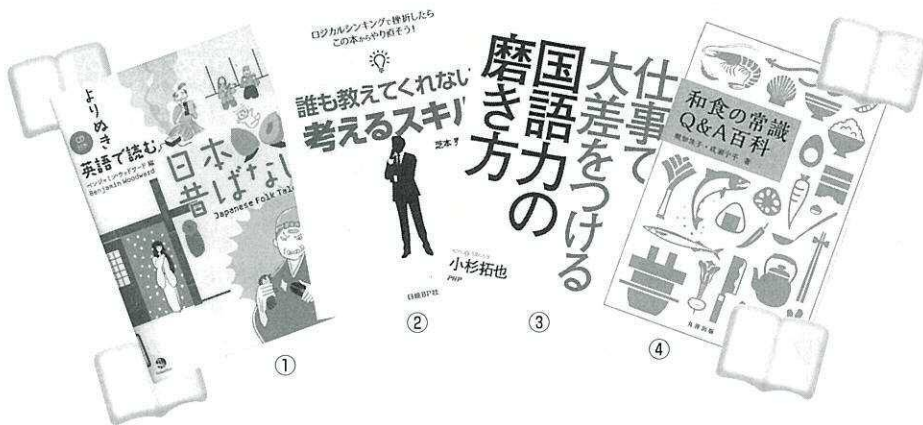
(PHP研究所)

仕事で他人と差がつくのは、どうしてなのか? どうしたら仕事が出来ようになるのか?...

いつも悩んでいたのが、その時に国語力こそが、実は仕事に、もっとも大切なことであると、この書籍は気づかせてくれました。プレゼンや人脈作りで最強の武器になるのは国語力であり、国語力は読む・書く・話す・聞くが大切で、その為には読書力を磨くことが大切で、例えば図書館を利用することで、より多くの書物と親しみ、読書力を磨くことにより国語力を高めることが出来ます。

こうして一度、身に付けた国語力は、一生あなたの財産になります。それでは、早速始めましょう!! (M. F.)

810 || Kos



② 芝本秀徳 著

『誰も教えてくれない考えるスキル』

(日系BP社)

本書には、著者がこれまでソフトエンジニアとして携わった仕事の経験を踏まえて、その中で色々工夫をして得た「考えることのエッセンス」が一杯詰まっています。今の時代、考えないで勉強や仕事をすることはまずありません。「ちゃんと考える」と言われるけれど、どう考えればいいのか分からない。「ロジカルシンキングは苦手だ。」と悩んだ事がある人は、たくさんおられると思います。そこで「考える」事について皆が、どこで挫折しているのかの具体例を挙げ、そしてその問題を解決するためには、どんなプロセスを経て、どのようなスキルや能力が必要になるかが大変わかりやすく解説されています。(S. S.)

336.2 || Shi

④ 堀知佐子、成瀬宇平 著

『和食の常識Q&A百科』

(丸善出版)

和食はその名の通り、日本人にとって最も身近な料理です。しかし、その種類は、ごく日常的なものも含め「精進料理」「本膳料理」「会席料理」など多岐にわたっています。

また、お雑煮やおせち料理といった正月料理は勿論、豆腐や漬け物のような身近な食事にも、宗教的意義や成立背景などがあります。ただ、我々は日常的に食しているため、それらのことに無頓着になりがちなのではないでしょうか。

本書はそんな「知られているようで知られていない、よく誤解されがちな話題」を調理方法や効能、伝統、文化など多方面からQ&A方式で解説しています。(H. I.)

383.8 || Hor